

衛星の品質力向上施策

稲川美之*

Quality Improvement Program for Space Satellites

Yoshiyuki Inagawa

要 旨

三菱電機は、2002年9月から2008年8月までに、衛星17機を引き渡し、15機の打上げ並びに軌道配置に成功するという大きな業績を上げた。

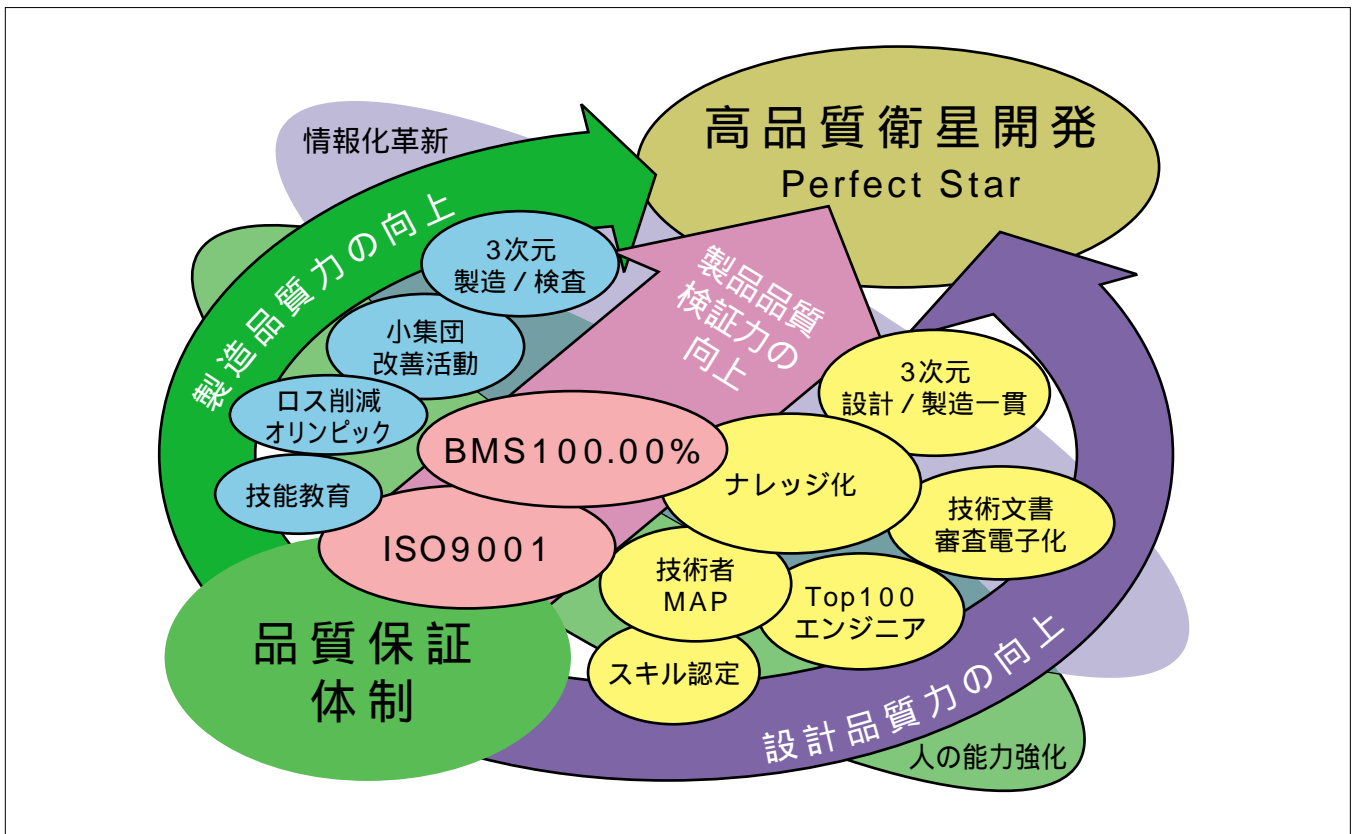
本誌の2005年8月号で衛星7機打上げ連続成功の報告をしたが、その後も記録を更新し、2008年8月にはフランス領ギアナにあるクールー発射場からスーパーバード^(注1)7号機(SB-7)が打上げられ、その後の運用も順調に推移して15機の衛星打上げ成功を達成した。

この連続打上げ成功の裏には、当社宇宙開発・製作の核である鎌倉製作所^{*}の全従業員が一丸となった、製品の高い品質と信頼性を確保するための着実に現実的な活動がある。

(注1) スーパーバードは、スカパーJSAT^(株)の登録商標である。

当社は、高品質という企業イメージを確立するために、設計品質力の向上、製造品質力の向上とともに製品品質検証力の向上という3つの競争力向上の施策を展開してきた。

製品品質検証力の向上の中心的な役割を担う組織としてBMS(Brand of Mission Success)推進センターを設立し、第三者が、いわゆる“独立した確認と検証”といった活動に従事し、各種審査及び不具合予防活動を展開してきた。BMS100.00%活動の詳細は本誌の2005年8月号で報告した。ここでは、その後の主要な活動内容であるヒューマンエラー撲滅に向けた取り組み、システム安全強化の取り組みについて述べる。



衛星の品質力向上施策

図は、従来の品質保証体制の上にBMS100.00%活動によって第三者検証機能を強化し、製品品質検証力を向上させるとともに品質を作り込む設計品質力及び製造品質力の向上施策を展開して、高品質衛星開発を達成するための品質力向上施策を示す。

* 鎌倉製作所